

笑顔と

神奈川県立金沢支援学校

やさしい心



# 学校だより

かなざわ

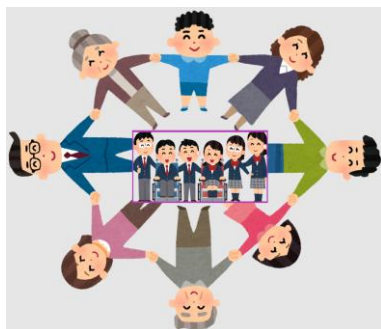
第193号 令和5年9月25日

## 地域とともに歩むために

校長 伊藤 美加

今年は本当に暑い夏でした。少しずつですがいろいろな日常が戻ってきて、久しぶりにイベントや旅行など、夏らしい夏を過ごすことができた方も多いと思います。

暦の上ではもう秋ですが、まだまだ残暑が続きます。引き続き健康に留意して、イベントの多い2学期を楽しみましょう。



今年度は、改めて「地域とともに歩む」というミッションを意識して活動を広げております。

金沢支援学校で学ぶ子どもたちについて、まずは地域に発信し、「このような子どもたちがこのような学習活動をしている学校である」と知ってもらうことで、地域とともに子どもたちの可能性を引き出す学びを具体的に考え、地域のご協力を得て、それを実現していきたいと考えます。

既に以前からたくさんのご協力をいただいている、金沢シーサイドライン・金沢団地協同組合や、分教室のある横浜氷取沢高等学校をはじめとする地域の小中高等学校、現場実習や進路先としてお世話になっている福祉施設や特例子会社、一般企業などとの連携を強化し、金沢支援学校の子どもたちや教職員が、地域のために貢献することも考えていきます。

9月1日より金沢シーサイドライン新杉田駅構内にて、金沢支援学校の児童・生徒が制作した絵画等の展示を昨年に引き続き実施していただいています。

初日に駅を通った際に、車両を降りて改札に向かう中学生の方々が、展示に気づいて一枚ずつじっくり見て感想を言い合っている姿をみかけました。

こうして（金沢支援学校ってどんなところ？）と地域みなさんに興味を持っていただけることが、共生社会への第一歩となります。

今年は12月20日までの展示の中で、高等部生徒が作品の入れ替えも行わせていただくことになっています。作品だけでなく、子どもたち自身が働く姿を、地域の方々に見ていただける貴重なチャンスであるとともに、子どもたちにとっても責任を持って働く経験となります。これからもこのような活動を広げて、地域とともに歩むことを進めてまいります。



## B部門高等部紹介



### 高B(本校)

今年度は、30名の新入生を迎え、2年生27名、3年生36名、総勢93名でスタートしました。新型コロナウイルス感染症がはやり始めてから4年、感染症対策も徐々に緩和され、学校生活における様々な活動がもとの形に戻りつつあります。今年度はプールの授業も再開されました。3年ぶりのプールということで手探りのスタートとなりましたが、各学年とも元気な姿を見ることができました。

6月には、3年生が現場実習・校内実習、2年生は校内実習を行いました。受注製品に携わる生徒、校内各所を清掃する生徒、自主製品を製作する生徒、それぞれが自分の目標にむかってがんばっていました。

また、1年生は7月に野島研修センターに宿泊学習に行きました。暑い中、カニ釣りをしたり、キャンドルファイヤーで盛り上がりたりと充実した活動ができました。

このような様々な体験を通して、自立と社会参加に向けて成長して欲しいと思います。

(高B学部長 柴田啓介)



### 分教室

15名の新入生を迎え、2年生15名、3年生15名、総勢45名でスタートしました。

1年生は入学当初、これまでと違う通学方法や授業に戸惑う生徒もいましたが、ゴールデンウィークが明けたころには慣れ、学校生活を楽しむ姿が見られるようになってきました。

2年生は6月に実習があり、校内で受注作業をしたり、企業等で実習をしたりしました。現場実習では、働く体験をしたことでひと回り成長したのではないかと思います。

3年生は5月に2泊3日で大阪方面へ修学旅行に行き、アトラクションに乗ったり、お土産を買ったりするなど、入学してから初めての宿泊を楽しみました。また、6月には実習があり、企業等へ実習に行き、卒業後の進路選択に向けて取り組みました。

7月には実習報告会があり、1年生も参加し、2・3年生から実習で学んだことなどの発表を1年生は真剣な表情で聞いていました。

3年間の学校生活の中で様々な経験をすることで、自立と社会参加に向け成長して欲しいと思います。

(横浜氷取沢分教室長 新船正次)

